

2020年8月6日

2020年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 青少年の自立を支える会 シオン
代表者・役職名 氏名 水野 洋

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真的肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

パソコン環境の整備と入居者への提供を行う事業

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

前身であるNPO法人子どもの研究所より、家族経営からの脱却を旗印に外部の実力者を迎えて平成22年、新たに当法人を設立しました。現在、3軒のホームを運営しています(ホームみらい:茨城県阿見町、ホームえがおの家:茨城県古河市、ホームあい:福島県郡山市)。入居定員は合計19名、会員数は152名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

現在、パソコンのスキルがあることは就職先の選択肢を増やすとともに、自らの視野を広げることにつながります。入居者がパソコン操作を学べる環境を提供することで自立の手助けをしたいと考えています。また、職員用のパソコンが古いため速度が遅く不具合も多いことから業務に支障が出ています。最新のものに交換して速度と安全性の向上を図り、入居者に向き合う時間をより増やしたいと考えています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

入居者用パソコン1台を購入し、全員が集まるリビングに設置します。入居者は自由に使用することができ、各々が必要なスキルを磨いて自立の支えになるよう活用いたします。また、ネット依存を防ぐためルールを設定して順守します。
職員用パソコン1台を購入し、事務室に設置して古いパソコンに入れ替えます。最新の機器を導入してセキュリティを万全にすることと、事務作業のスピードアップを図り入居者に向き合う時間を増やすことが目的です。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

メディア学習、オンライン授業の比率が高まる中、最新のパソコンによって快適に学習することが出来ています。また、最新機器によって興味関心を呼んで意欲の向上にもつながっており、大きな効果を感じています。
職員用パソコンについても、リモート会議やメール等でのやり取りが増えている中、同様に効率的な業務を行うことが出来ており、十分な成果が出ています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

社会環境の著しい変化が今後も続くと思われますが、それに対応していくためにも最新のIT機器が必要だと思いますので、非常に良いタイミングで今回助成いただくことが出来ました。今後の変化に対応するためにそれらを使いこなせるよう、職員のスキルアップを図っていくことが必要だと感じます。また、最終的な目標である入居者の自立に向けてパソコンをどのように活用していくか、今後も試行錯誤をしていきたいと思います。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

